

◎主な研究成果

◆栽培特性が優れる極良食味品種「青天の霹靂」を開発

日本穀物検定協会の食味官能試験で、県内の品種で初めて「特A」評価を取得しました。
耐冷、耐病で栽培特性が優れ、平成27年に本県の奨励品種に指定されました。



「青天の霹靂」の草姿
左：「つがるロマン」 中：「青天の霹靂」 右：「まっくら」

◆冷涼地域でも安定栽培可能な酒造用品種「吟烏帽子」を開発

耐冷、耐病性に優れ、これまでの酒米品種に比べて出穂期が早く、冷涼地域でも安定した品質を確保できます。高度精米でも割れにくいので、純米酒から大吟醸酒まで幅広い醸造適性があります。平成30年に本県の認定品種に指定されました。



「吟烏帽子」の草姿
玄米(上)と切断面(下)

◆水稲の省力・低コスト栽培技術及び高品質米安定生産技術のマニュアル作成

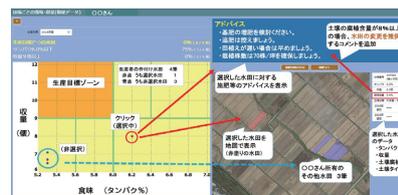
寒冷な本県の気象条件において実用可能な省力・低コスト及び高品質米安定生産技術として、「水稲V溝乾田直播栽培」「水稲疎植栽培」「水稲高密度播種苗栽培」「えみゆたか移植栽培」「あさゆきの栽培」「はれわたりの栽培」の実用化技術を開発し、体系化したものを栽培マニュアルとして提供しています。



各マニュアル

◆ブランド米生産支援システム「青天ナビ」を開発

衛星画像などを基に、水田1枚ごとに、「青天の霹靂」の施肥管理や栽培に適する水田を自動でアドバイスする機能等を備えています。平成31年2月から、県・JA等の指導員が栽培指導に活用しています。



青天ナビ(施肥指導画面)

◆農業用ドローンによる農薬散布の普及

近年利用が進んでいる農業用ドローンについて、水田雑草や水稲・大豆等の病害虫に対する農薬散布試験を行い、作物への安全性と十分な防除効果を確認し、無人ヘリ同様に活用できることを明らかにしました。



農業用ドローンによる農薬散布

◆秋出しトルコギキョウの切り花品質向上・開花抑制技術の開発

9~10月出荷のトルコギキョウは、早期に短茎で開花し品質が低下しますが、定植直後から発蕾時期までの赤色LED電照により、開花が抑制され切り花品質が向上する技術を開発しました。



トルコギキョウの赤色LED電照試験の状況
(左:電照有り、右:電照無し)

◆夏秋ミニトマト「サンチェリーピュア」の摘花房による収穫期平準化技術の開発

夏秋ミニトマトは単価の安い7~8月に収穫が集中し多くの労力を要しますが、6月に着果前の開花花房を切除することにより、夏季の収穫ピークが軽減し秋季の収量を向上する技術を開発しました。



ミニトマトの摘果房(左:処理、右:無処理)

◎その他の試験・研究・調査

- ◆稲作の経営規模の拡大に対応した省力的な栽培技術の開発
- ◆水田営農における収益性向上技術に関する研究
- ◆水稲・小麦・大豆の作況試験
- ◆優良な種苗の生産(水稲、小麦、大豆、花き)
- ◆農耕地土壌実態に関する調査研究
- ◆主要病害虫に対する新農薬の効果比較試験
- ◆病害虫発生予察のための基礎調査
- ◆夏秋トマトのデータを活用した自動かん水技術に関する研究
- ◆青森型イチゴ栽培システムの開発